

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：34416
研究種目：奨励研究
研究期間：2019
課題番号：19H00115
研究課題名：分散効果/意味ネットワークを援用した動詞-名詞コロケーション学習リストの開発

研究代表者
山形 悟史 (YAMAGATA, Satoshi)
関西大学・第一高等学校/第一中学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：420,000 円

研究成果の概要：

本研究は、第 2 言語コロケーション（以下、コロケーション）学習に大きな影響を与えることが知られている、動詞の意味ネットワーク構造と分散/集中学習要因に焦点を当て、コロケーションの効果的な学習順序の提案とそのリスト作成を目的とした。2019 年度に取り組んだ研究内容は次の 3 点に集約される。1. 関連領域の文献調査、2. 実験計画の立案・実験で使用するコロケーション、それらを提示・テストする英文テキスト、および教材・テストの作成、3. 約 100 人の日本人高校生を対象とした授業実践と効果測定。これら 3 点をもとに現在、学術論文 1 本を執筆中で、国際学会でも 1 件、口頭発表採択をされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、コロケーション学習の成否に影響を及ぼす主要因が明らかになる。結果、コロケーションをどのような順序やスケジュールで教える/学習すべきかの示唆を得られる。既存の単語帳や語彙リストは頻度情報や品詞、使用場面などの観点からコロケーションの配列を行っている場合が多いが、これは必ずしも学習者が覚えやすい、また学習しやすい配列であることを示すものではない。本研究で得られた知見は、習得が難しく時間も要するコロケーションを効率よく授業内容や教材へと反映させることに有用である。結果、英語 4 技能の伸長はさることながら、特に英語発信力・即興性の向上への貢献が期待される。

研究分野： 応用言語学

キーワード：コロケーション 分散/集中学習 動詞意味論

1. 研究の目的

本研究は、動詞の意味ネットワーク構造と分散/集中学習のそれぞれの要因を別個のコロケーション学習システムに反映させ、コロケーション習得における各要因の相対的な重要性を明らかにすることを目的としていた。

2. 研究成果

学習されたコロケーションの記憶について

- コロケーション学習では、分散学習要因が語彙意味論的要因よりも優位に働くこと。
- 小テスト等、コロケーション学習中の正答率は最終的なコロケーション知識の獲得に必ずしも反映されないこと。

初見コロケーションへの既習コロケーション知識の転移について

- 分散学習要因、語彙意味論的要因を反映したいずれの学習条件においても、学習したコロケーションの知識が、初見のコロケーション知識へも転移すること。
- 前述のコロケーション知識の転移効果は、分散学習要因の方が語彙意味論的要因よりも顕著であったこと。

これらの成果より、分散効果を利用することで、L2におけるコロケーション知識の習得が促進されることが確認された。これは、draw a line, draw a bath, draw a pictureというdrawを含む3つのコロケーションを学習する場合、3つをまとめて同じ日に学習する(集中学習)のではなく、それぞれ別の日

に学習する(分散学習)ことで、学習効果が高まることを意味している。

また、本研究を通じて以下の限界・将来的に検討すべき課題も明らかとなった。

1. 親密度や頻度、意味的透明度など、各コロケーションを構成する個々の動詞や名詞の持つ言語学的情報をより詳細に統制・再検討する余地がある。
2. 同じ動詞で構成されるコロケーションの分散間隔を伸ばすことで、学習効果が向上する可能性がある。

これらの点を考慮し、現在第2実験を実施、その結果を分析中である。

3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

Yamagata, S., Nakata, T., & Rogers, J. (2021). Effects of spacing and massing on the acquisition of verb-noun collocations: From item learning and system learning perspectives, The 30th Conference of the European Second Language Association (EuroSLA), July 2021.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

4. 研究組織

研究協力者

研究協力者氏名: 中田達也, James Rogers

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。